社長は人面獣心か

抗議のハガキが殺到

経過観察補償打切りに

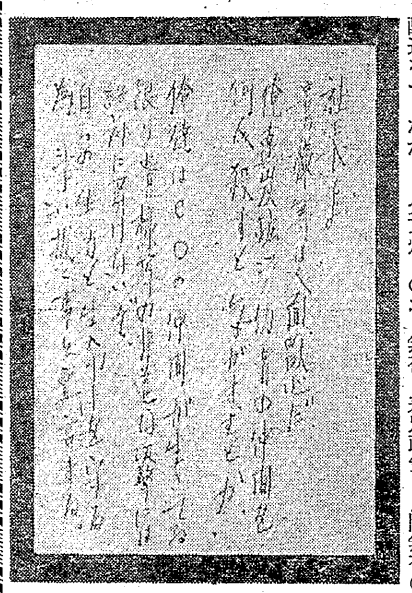
経過観察中のCO患者と、九・二八関係CO患者に対する、政府の労災補償打切りが迫っているさなか、日に何百通、何千通もの抗議のハガキが、現社長＝倉田興人（東京都中央区日本橋室町二丁目一の一、三井鉱山内）のもとに殺到している。

組合本部は毎日各指導部からもちこまれるこれらの抗議のハガキを郵便局に運ぶために大いそがしというところである。

この抗議行動は中央委員会の呼びかけにこたえるものだが、一枚のハガキにこめた怒りの言葉は、鬼さえ動かさずにはいない内容となっているのも、けだし当然であろう。

それらの中のいくつかを拾って紹介すると

――社長よ、貴様らは人面獣心だ。俺たち炭鉱労働者の仲間を、何人殺すと気がすむのか。俺たちはCO患者仲間が生きている限り貴様らの非道な攻撃には絶対に負けないぞ。自らの生活と生命を守る為、闘い抜くことを宣言する。



抗議ハガキの一つ

――拝啓、私はCO患者の友達で、その中毒患者本人と家族の悲しみと苦しみを、良く知っている者の一人です。

患者仲間の家族は生きる為、要は朝早くから、夜はおそくまで、か弱い身体に鞭打って、馴れない土方仕事に家を空け、小学生の子供は、この寒空に豆腐売りや新聞配達をやりながら、夕方帰りのお母を待つ為に、アカ切れした小さな手でレンタンの火を起こし家を暖くしているのです。

患者本人もそのみじめな家族の為、又本人自身の為に歯をくいしばり、耳鳴り、頭痛に耐えながら精一パイ、一日も早く社会復帰できるよう努力し、闘い抜いています。この事を良く理解され、保安無視、差別政策、人間無視の政策を即刻中止し、CO患者問題、その補償問題など、むしろ会社が責任もって解決し、面倒見て頂くよう努力して頂きたいと思います。

ほかは略するが、この声が社長の耳に果たして聞こえるものかどうか？

――とは似もつかぬことである。

このような事実の認識のうえに立てば、三池炭鉱労働者はもっともっと自覚を高め、賃金はいうに及ばず、シールド自走枠導入がつくりだす劣悪な労働条件その他の条件を、思い切って獲得する闘いに立つべきである。

三井鉱山の展望に見られる事実からしても、本来なら最高の賃金・労働条件が補償されなければならぬ地下産業労働者が、最低のみじめな暮らしに耐えなければならぬ理由はない。

次々に自走枠を導入

2月から宮浦へ、つづいて四山へ

差別配転断じて許さぬ

要求つきつけ闘いへ

宮浦指導部

三井三池では、明らかにその全炭工が他の職種に放り出され、きびしい差別と、おどろくべき減収をきたし、家計をおびやかす例まで少なからず出てきた事実にもとづき、「基本的にシールド自走枠導入反対」をきめ、次の要求をつきつけるよう意志統一に乗り出していた。

一、宮浦鉱の長期採炭計画、ならびに人員計画を明らかにせよ。

一、シールド自走枠に三池労組員も配置せよ。

一、各配転については、在籍比であん分せよ。

一、転職者の行先賃金については、払採炭の現行賃金平均を最低補償とせよ。

一、払採炭工に欠員が生じた場合は、転職者を優先的に補充せよ。

一、転職者に対しての作業、保安については七日間の教育を行え。

三井鉱山は労働者から徹底的に最大限利潤をしぼりあげることによって、いっそう巨大な事業展望の中で、国労分会の書記長と、地方本部の青年部副部長という仕事を兼務し、激しい、そして苦しい闘いをつづけてきました。しかしとんなにつらい立場に立ったときでも、三池で学んだこと、特に嘉悦さんから聞かされた数々のことが、私を大きく勇気づけてくれました。

「三池の仲間は、もっともっと苦しい中で頑張ってきたんだぞ」――と、常に自分に言い聞かせています。

嘉悦さんのお宅に泊めて戴いたことが、生涯忘れ得ない、私の貴重な思い出です。

「体の中に、三本線が焼きついている」――といった前田さん、いつも、ニコニコと優しい顔をしていた宮川前組合長さん、みなさん、頑張っていることでしょう。

多少時節はずれになりましたが〝三池に学ぶ会の報告集〟をお送りすることに決心しました。つまらないものですが、吉田さんと三池労組にもお渡し下さい。

組合員・主婦の皆さん、本紙に毎号紹介していますように、全国各地の若い仲間から、物心両面から連帯の手が差しのべられています。忘れてはなりません。どうか、みんなで返事を書きましょう。返事を、本紙のこの欄を通じてお送りしてはいかがでしょうか。ぜひお願い致します。

くろだいや新聞

日本新記録を達成

月産10万529トン

12月シールド枠払で

四山鉱

入賞は78グループ

12月予算達成の原動力に

追い込みに全力あげん

資本蓄積状況

三井アルミの創業、響灘大コークス炉建設、三池港の大拡張などは述べるまでもなく、すでに外国にまで資本進出を行い、カナダのパルマー炭鉱経営、オーストラリアへの進出（石炭と思われる）、はては原子力発電を当てこんでか「ウラン鉱の開発」（アフリカのコンゴあたりか？）など、着々と事業を拡大している。まさに、三池炭鉱労働者のみじめな労働条件

太平洋労組から職場新聞が

太平洋炭鉱労働組合から、このほど〝職場新聞〟がとっさり送られてきた。送られてきたかぎりでは、約十六種ほどが活動している。それでも「五分間ニュース」など、早くも千号を超えている。去年十一月十一日発行でその〝記念特集〟を行っている。

三池の職場新聞も負けられぬが今後は大いに交流しながら、手をとり合ってがんばってゆこう。

自信強めて対決へ

三池の苦闘思いながら

福島　円谷　寛

おめでとうございます。

月日のたつのは早いものです。第八回三池に学ぶ集会より、早や一年が過ぎようとしております。その節は心からもてなして頂き、改めて御礼申し上げます。

昨年秋は、新聞にも大分出ましたマル生運動という組織破壊攻撃の中で、国労分会の書記長と、地方本部の青年部副部長という仕事を兼務し、激しい、そして苦しい闘いをつづけてきました。しかしとんなにつらい立場に立ったときでも、三池で学んだこと、特に嘉悦さんから聞かされた数々のことが、私を大きく勇気づけてくれました。

「三池の仲間は、もっともっと苦しい中で頑張ってきたんだぞ」――と、常に自分に言い聞かせています。

嘉悦さんのお宅に泊めて戴いたことが、生涯忘れ得ない、私の貴重な思い出です。

「体の中に、三本線が焼きついている」――といった前田さん、いつも、ニコニコと優しい顔をしていた宮川前組合長さん、みなさん、頑張っていることでしょう。

多少時節はずれになりましたが〝三池に学ぶ会の報告集〟をお送りすることに決心しました。つまらないものですが、吉田さんと三池労組にもお渡し下さい。

それから、CO患者守る会会費も、お届け致します。まとめて何年分も送れればいいのでしょうが、薄給の身故思うにまかせず、千円だけ同封させて頂きます。患者の皆さんのことを思えば、金がないなどということが許されないことと思いながらも、今月はそれ以上の苦面がつきませんので悪しからず。

今年も、資本主義のしくみがもたらす矛盾を、労働者の犠牲によって乗り切ろうとする様々な攻撃が、インフレ、合理化、重税などとなっておそいかかってきようとしています。私たちは圧倒的立場に立っているという自信を強めながら、これらの攻撃を一つひとつはね返して行かなければ、と考えております。

ともあれ、この一年御一家様の御健康をお祈り申し上げる次第です。皆様にもよろしくお伝え下さるよう、お願い致します。

×

嘉悦清一・スミ子さんの許に届いた便りです。なお、円谷さんのお住居は「福島県岩瀬郡鏡石町成田西原一」です。

建設に職場班誕生

埼玉　斉藤　実

第五回全国青年団結集会の折はたいへんお世話になりました。

私は、三池にまなんだことをたいへん有意義に思い、そして資本に対する怒りをあらためて感じました。この怒りを理論に転化し、同時に実践に移すことが重要であると考えます。三池労働者と連帯するということは、埼玉の地における運動を通して、革命の主体勢力を作ることである、と理解しています。

感謝の意をこめた送り物――報告を致します。それは杜青同埼玉地本浦和支部に全国で初めて建設労働者の職場班が誕生するところまでこぎつけたことです。私はこの中で、長期抵抗大衆闘争路線に基づいた運動を確実に追及してゆきます。

十一月二十一日には、みかん狩りを行いました。浦和建労まなぶ友の会の主催で初めて行った大衆的なレクリエーションでしたが、この中で「炭掘る仲間」「人として生きるために」の歌を、全員がおぼえました。同時に今私達がおかれている状態と、三池労働者の闘いをミーティングする中で明らかにしていきました。

約束ではみかんを送ることになっていましたが、現在私のフトコロには、独占資本の搾取強化により、百二十八円しかありません。たいへん申し訳なく思いますが、おゆるし下さい。

港務指導部、新港地域分会の皆さんによろしく。いつまでも三池の炎を高々と燃やしつづけて下さい。

×

斉藤さんから、大石昇・知恵子さん（港務）へ寄せられた便りです。住居は「浦和市北浦和三―一六―七」です。